

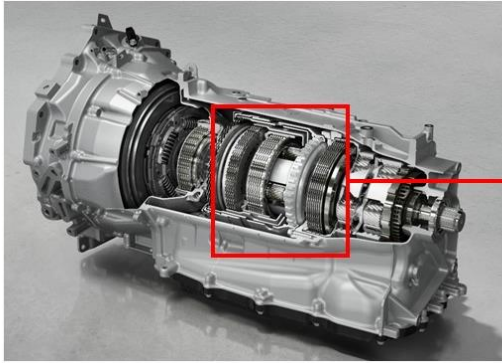


2023年12月27日

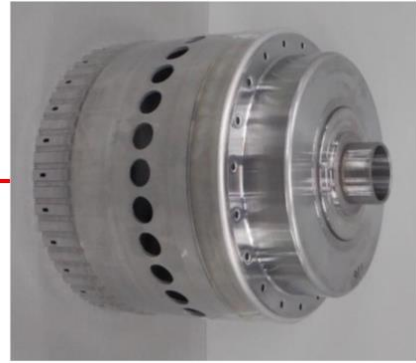
## マツダの新開発8速オートマチックトランスミッションが 「機械振興協会会長賞」を受賞

マツダ株式会社(以下、マツダ)のラージ商品に搭載する新開発の8速オートマチックトランスミッション(AT)が、第58回機械振興賞(主催:一般財団法人機械振興協会)\*1の「機械振興協会会長賞」を受賞しました。

「機械振興賞」は、機械工業にかかわる優秀な研究開発およびその成果の実用化によって、機械工業技術の進歩・発展に著しく寄与したと認められる業績に対して授与されるものです。\*2



新開発8速オートマチックトランスミッション



長尺アルミクラッチドラム

この新開発8速ATは、「走る歓び」と優れた「環境・安全性能」を大幅に進化させたラージ商品群に採用されている技術であり、現在「CX-60」および「CX-90」に搭載、商品化されています。トルクコンバーターの無いクラッチ発進機構を採用することにより、エンジン応答の良さをマニュアルトランスミッションのようにダイレクトに伝え、かつ遅れを感じさせない変速応答や変速間隔の造りこみにより、人の感覚に一致した、リズム感のある軽快な走りを目指しました。

8速ATに採用された技術のうち、今回の受賞対象となったのが「長尺アルミクラッチドラムの塑性(そせい)加工化技術\*3」です。動力の伝達や遮断を担うクラッチドラムを、従来の鉄やアルミ铸造品より軽量のアルミ塑性加工品とするとともに、これを既存の塑性加工(生産)ラインを活用して製造する技術を開発。コスト上昇を抑えながらユニットを軽量化することにより、CO<sub>2</sub>排出量の低減とともに、自然なドライビングポジションの実現に寄与していることが評価されました。

受賞対象: 「長尺アルミクラッチドラムの塑性加工化技術の開発」  
開発担当者: 椎野 和幸(しいの・かずゆき)、野畑 俊也(のばた・としや)、河野 弘和(こうの・ひろかず)、  
新家 泰平(しんけ・たいへい)、長野 隼門(ながの・はやと)

マツダは、今後も「ひと中心」の価値観のもと「走る歓び」を進化させ続け、お客さまの日常に移動体験の感動を創造し、「生きる歓び」をお届けしていくことを目指してまいります。

\*1: 一般財団法人機械振興協会ウェブサイト: <http://www.jspmi.or.jp/>

\*2: 本年度の表彰式は2024年2月16日(金)に東京プリンスホテルで実施予定。

\*3: 金属材料に力を加えることで変形させて形状を作り上げる加工技術。